



# 信州の農業資産

## 魅力ガイド

長野県

田圃の頃の拾ヶ堰

### 『疏水』とは…

農業用水路など利水を目的に造られた水路の総称で、県内には2万kmにもおよぶ農業用の疏水があります。稲作文化の発展とともに地形や厳しい気象などさまざまな困難を克服すべく、そこに挑んできた先人たちの努力と英知の積み重ねによって現代まで大切に受け継がれてきました。農産物の生産に必要な用水を供給することはもちろん、地域の文化や伝統とともに歩んできた歴史があり、故郷の景観を織りなし、生き物を育むなど、多様な魅力を兼ね備えています。将来にわたって疏水の役割が維持され、美しい農村の景観と国土が守られるよう、農林水産省が、全国110ヶ所を『疏水百選』として選定し、県内では全国で最も多い5ヶ所が選ばれました(平成18年2月選定)。

### 『ため池』とは…

降水量が少なく、流域の大きな河川に恵まれない地域などで、農業用水を確保するために水を溜め、必要ときに取水できるように、人工的に造った池のことです。県内には1,800ヶ所余りのため池があり、古くは江戸時代以前に造られたものも数多くあります。その利用目的は、水量の確保のほか、冷たい雪どけ水を一時的に蓄え、水を温めることにより米の収量を増やすためのものや、山からの水に含まれる鉄分を沈殿させて稲の生育障害を防ぐものもあります。また、多様な生態系を育む水辺空間を形成し、豊かな景観を織りなし、地域の人々や観光客にも親しまれています。ため池の歴史や多様な役割、保全の必要性を国民の皆様へ理解いただく契機とするため、農林水産省が、全国100ヶ所を『ため池百選』として選定し、県内では5ヶ所が選ばれました(平成22年3月選定)。

### 『棚田』とは…

傾斜がきつ狭い地形において、階段状に造られた大小さまざまな形の水田の集まりで「千枚田」ともいわれています。その立地条件を活かした特色ある農業生産の場となっていることはもちろん、急峻な地形を巧みに利用した農業を通じて国土・環境の保全や伝統文化を継承し、四季折々の美しい景観は日本の原風景を織りなしています。昔ながらの農法により栽培した米を地域のブランドとして販売していたり、都市住民と協働での農作業や保全活動、イベントも行われています。令和4年11月には、農林水産省が優良な棚田を改めて認定する取組「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」を実施し、長野県は15ヶ所が選ばれました。

場所によっては危険な箇所もありますのでご注意ください。

長野県 農政部 農地整備課  
〒380-8570 長野県長野市大字南長野下692-2  
TEL026-235-7237 FAX026-233-4069  
ホームページ http://www.pref.nagano.lg.jp  
電子メール nochi@pref.nagano.lg.jp  
この事業は「ふるさと信州寄付金」を活用しています。



発行2017年3月(6K 3K 11.5K 10K) 改定2025年12K 8000

## 佐久エリア

小諸市、佐久市、小海町、佐久穂町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村、軽井沢町、御代田町、立科町  
お問い合わせ先 佐久地域振興局農地整備課 ☎0267-63-3150

### 1 女堰

【所在】小諸市妻野  
【築造】室町時代(1336年頃)  
【管理者】小諸市高峯土地改良区

室町時代初期、湯の丸堰と新田堰が統合されたのが女堰の起源といわれています。その後、開田が進むにつれ水需要が増え、その都度改修が繰り返されてきました。水害や用水不足のため昭和29年から7年をかけて改修が行われた際は、まだ終戦後の資材難の中での工事だったそうです。昭和45年に現在のコンクリート水路になり、用水供給が安定しました。

### 2 千ヶ湯滝川用水

【所在】軽井沢町追分  
【築造】承応元年(1652年)  
【管理者】千ヶ湯滝川用水土地改良区

江戸時代初期、柏木小右衛門が小諸藩に頼りて開削した御影用水(みかげようすい)の下堰にあたる水路です。昭和30年から45年に実施した県営事業で現在の施設に改修されました。水源である湯川は、かんがい期間を通じて水温が著しく低く、冷水による低温障害を防止するため、水路中流部には、水温上昇を目的とした延長約1km、幅20m、水深20cmの温水路(おんすい)と呼ばれる特徴的な施設があります。

### 3 御牧原第1号幹線用水路

【所在】佐久市望月ほか  
【築造】昭和45年(1970年頃)  
【管理者】北佐久郡川西土地改良区連合

女神湖などとともに県営事業により造成された延長約12kmの水路です。塩沢堰、八重原堰、宇山堰を1つに統合することにより生み出した水も、それまでため池のみに頼っていた御牧原台地に導水するためのものです。サイホンが4ヶ所あり、中でも望月サイホンは、延長6km、高低差は220mに及び、農業土木事業としては稀に見る長いサイホンです。

### 4 四ヶ用水

【所在】佐久市  
【築造】1615～1623年頃  
【管理者】佐久市土地改良区

上州(現群馬県)南牧(なんもく)出身の市川五郎兵衛(ごろうべゑ)は、仕立てた武田氏が滅びると「志すに武に非ず、殖産興業にあり」と徳川家康に申し出て、領地内で土地の開拓を認めるという朱印状を与えられました。五郎兵衛はこれを持って佐久に入り、まず湯川の水を引いて三河田(みかわ)の新田を拓きました。猿久保、三河田、今井、横和という旧村にちなみ現在四ヶ用水と呼ばれています。

### 5 常木用水

【所在】佐久市  
【築造】1615～1623年頃  
【管理者】佐久市土地改良区

市川五郎兵衛が佐久において三河田用水(現四ヶ用水)の次に開削したのが常木用水です。四ヶ用水と同じ湯川から水を引き、湯川の右岸に市村新田(佐久市常田)を拓きました。取水口から流末まで標高差10mにすぎないところに水を導きやすくするため、河川との交差点に石組みの箱橋で河床の下を潜らせる「わくわく」という現在のサイホン式工法など進んだ技術が用いられていました。

### 6 佐久平用水

【所在】佐久市  
【築造】昭和33年(1958年)  
【管理者】佐久市土地改良区

佐久平用水は、城下、臼田、野沢及び平賀(ひらか)の4用水を合併して造成された水路です。千曲川の左岸にある頭首工から取水し、福寿山下の沈砂池へと至り、ここで千曲川の右岸へ平賀用水を分水します。平賀用水は、サイホンより千曲川を横断しており、また、左岸の水路についても隧道で福寿山下を通過するなど、当時の工事の苦労がしのべられます。

### 7 五郎兵衛用水

【所在】佐久市浅科  
【築造】江戸時代(1630年頃)  
【管理者】五郎兵衛用水土地改良区

市川五郎兵衛は、三河田用水、常木用水に続いて千曲川の西に広がる草原に水を引こうと考えました。礫科山中に源水(五斗水(ごのみず))を見だし、小諸藩から用水開削の許可を得ました。変化に富んだ地形のためトンネルや水路橋、盛土(築堤(つぎせき))などの技術が駆使されました。私財を投じた五郎兵衛の徳を慕って五郎兵衛新田と呼ばれるようになり、今ではブランド米の産地となっています。

### 8 赤沼ため池(女神湖)

【所在】立科町芦田  
【築造】昭和41年(1966年)  
【管理者】北佐久郡川西土地改良区連合

かつて赤沼と呼ばれた湿原に塩沢の余水を利用してため池を造ろうと、昭和17年に造成工事が始まりました。その後、食糧増産への機運が高まり、昭和37年に工事再開、昭和41年に完成しました。この恵水は、立科から八重原の地域、さらには御牧原台地の農地へと行き渡っています。また、白樺高原の中心の湖として観光客が絶えません。

### 9 宇山堰

【所在】立科町 葦科山麓～宇山区  
【築造】寛永14年(1637年)  
【管理者】立科土地改良区

芦田(現立科町)の土屋重蔵・遠山長作らにより開削された約40kmの水路です。岩場やコウウ(石場)などの難所があり、毎春芝土をあてがって漏水を防いでいたと伝えられています。明治時代に一部が石橋に変えられ、昭和30年代には用水路の再編に伴いその役目を終えましたが、昭和40年、先人の明と勇を称える記念碑が現地に建立されました。

### 10 塩沢堰

【所在】立科町  
【築造】寛文2年(1662年)  
【管理者】立科土地改良区

江戸時代初期に田原原(現立科町)に移り住んだ初代六川三郎勝家は、1641年葦科山麓に弁天(べいていじん)、水田(みづいで)の湧水を探し当て、私財を投じて約10年の歳月と10万人もの人足を費やし、工事のため人命を落としたことあるという過酷なものでした。堰と併せて、台地に明神池、田原池などのため池を造成したことにより、不毛の台地は大きく発展しました。

### 11 大岳幹線

【所在】佐久穂町  
【築造】江戸時代初期、昭和28年(1953年)  
【管理者】佐久穂町

江戸時代に湯川から取水する用水が開削されましたが、水争いは絶えませんでした。そこで明治初年になると毎年八十八夜の日、水路途中にある滝の下(分水地点)で用水の分配量を調整するようになりました。崖面に保管された土の長さを用いたことから、藤巻(ふじまき)分水と呼ばれていました。現在の役割は、昭和28年に造成された鉄筋コンクリートの響の響(うそのくち)円筒分水工が担っています。

### 12 袖添用水、広瀬用水

【所在】南牧村  
【築造】江戸時代(袖添用水)、1965年(広瀬用水)  
【管理者】南牧村

袖添用水は、江戸時代に開削されたといわれ、袖添川沿いの水田6haをかんがいでいます。開削以降、改修された記録は特になく、ほぼ土水路のままの姿を今も残しています。一方、広瀬用水は、昭和40年代に取水施設の改修や、東奥の広瀬地区において整備が行われました。89haの水田をかんがっているほか、板橋地区への補給水としても利用されています。

### 13 宇坪入の棚田

【所在】小諸市妻野  
【築造】不明

小諸市北西部の妻野地区にある宇坪入の棚田は、浅間山麓の尾根に挟まれた尻筋に広がる石積の棚田です。標高900～970mに位置し、さまざまな大きな石を積上げた石垣は美しい景観を形成していますが、農家の高齢化が著しく、担い手も不足していましたが、「棚田開墾の会」が発足し、新たな担い手として美しい景観を保全しようと活動しています。

### 14 滝の沢の棚田

【所在】東御市津津  
【築造】不明

東御市の東部に位置する滝の沢の棚田は、石積の田んぼが集落を取り囲むように広がり、美しい農村景観を生み出しています。平均勾配1/8程度(距離8mにつき1mの高低差)の急峻な土地では、法面を減らして少しでもいい耕作地を確保するため石積にしています。

## 上田エリア

上田市、東御市、長和町、青木村  
お問い合わせ先 上田地域振興局農地整備課 ☎0268-25-7130

### 1 依田川頭首工

【所在】上田市  
【築造】昭和30年(1955年)  
【管理者】千ヶ湯滝川用水土地改良区

上田市(旧九子町)慶越地区の依田川右岸側の頭首工から取水した水は、右岸(丸子、長瀬、塩川地区)、左岸(慶越、東内、依田、東塩川地区)にかんがいでいます。厩所であった二ツ木峠を貫く隧道を建設したことで、東塩川地区まで新たに用水を流せるようになりました。

### 2 塩田平のため池群

【所在】上田市塩田  
【築造】戦国時代末期～  
【管理者】自治会・農家組合等

上田市は、全国的にも非常に雨の少ない地域で、塩田平には100以上のため池が存在します。多くは戦国時代末期、上田城主貞田氏の時代に築造されました。池の名称には、発祥となる伝承が残っているものも多くあります。また、歴史や景観の美しさを評価された塩田平のため池群は、農林水産省の「ため池百選」に選ばれ、水を利用する地域住民によって大切に管理されています。令和4年には日本遺産の構成文化財に追加認定を受けました。

### 3 神川左岸幹線

【所在】上田市・東御市  
【築造】昭和49年(1974年)  
【管理者】長野県神川沿岸土地改良区

神川左岸幹線水路は、かんがい・発電等を目的とした菅平ダムの建設に併せて、昭和43～49年に築造されました。上田市長田町にある神川の大日向頭首工から取水され、途中の山麓を等高線に沿って進み、トンネルやサイオンが流され、約14kmの距離をほぼ地上に姿を見せることなく用水を運んでいます。上田市・東御市約430haの農地では、米、リンゴ、ブドウの生産が盛んに行われています。

### 4 塩川堰

【所在】上田市丸子  
【築造】平安時代  
【管理者】長野県小諸郡依田川沿岸土地改良区

上田市丸子の依田川右岸に広がる水田約470haを潤す塩川堰は、塩川用水とも呼ばれ、上堰、下堰の総称で、田圃を潤す依田川から取水しています。塩川堰の歴史は定かではありませんが、流域で確認されている築里(築基状に区画された土地)遺構から、平安時代から段階的に開発されてきたと考えられています。昭和20年代の農業水利改良事業により改修されました。

### 5 吉田堰

【所在】上田市・東御市  
【築造】昭和33年(1958年頃)  
【管理者】吉田管理組合

吉田堰は、神川の堰を上田市真田町石舟にある頭首工から取水し、真田町長・本原・殿城・吉田を通して、東御市の深井・海野まで流れる約9kmの水路です。開削は717年頃といわれる歴史ある水路ですが、大雨のたびに取水口が流され、漏れや漏水防止の改修、需要期の水引に費やす労力と経費は莫大なものでした。昭和40年代、菅平ダム建設に併せて全面改修が行われ、農家の負担は軽減されました。

### 6 菅平ダム

【所在】上田市菅平  
【築造】昭和43年(1968年)  
【管理者】長野県

かんがい、上水道及び発電のため、長野県、上田市、長野県神川沿岸土地改良区が共同事業者となって建設した利水ダムです。ダムに蓄えられた用水は、神川から取水する15の堰から約1,300haの農地を潤して、干害に悩まされていた農地の生産性は、安定した水の供給によって飛躍的に向上しました。また、河川の流況が安定したことによって農業以外にも計り知れない恩恵をもたらしています。

### 7 大堰

【所在】上田市武石  
【築造】鎌倉時代  
【管理者】上田市

標高2000mの美ヶ原高原を源とする武石川は、水温が低く、かんがい用水として利用するには冷害を招くおそれがあります。このため、水路橋を広くとり水深を浅くすることによって、太陽熱で水を温めるようにしています。上田市武石総合グラウンドの周辺や武石小学校の校内に流れており、地域に潤いと安らぎを与えています。

### 8 沢山池

【所在】上田市野倉  
【築造】昭和9年(1934年)  
【管理者】上田市塩田平土地改良区

上田市塩田平は、年平均降水量が900mm程度と非常に雨の少ない地域で、多くのため池が造られました。沢山池は塩田平の池に用水を補給するための水源として、塩田平の奥地に、昭和9年から13年にかけて造られました。江戸時代に大小100にもおよぶため池が築造され、塩田三万石といわれる水田に今も豊かな水もたらされ、地域農業の礎を担っています。

### 9 八重原堰

【所在】東御市八重原  
【築造】寛文2年(1662年)  
【管理者】東御市八重原土地改良区

江戸時代初期に小諸城主山崎氏の家臣、黒澤嘉兵衛によって開削された。葦科山麓を水源とし、総延長は88km(当時)にもおよぶ長大な堰の開削は、完成までに約10年の歳月と10万人もの人足を費やし、工事のため人命を落としたことあるという過酷なものでした。堰と併せて、台地に明神池、田原池などのため池を造成したことにより、不毛の台地は大きく発展しました。

### 10 六ヶ村堰・上田農水頭首工

【所在】上田市小牧  
【築造】寛永9年(1632年)  
【管理者】上田農水連合会(六ヶ村堰・樹園・塩田平土地改良区)

六ヶ村堰は、当時の小牧村、諏訪形村、神原村、上田原村、御所村、中之条村の六ヶ村へのかんがいを目的として、江戸時代初期、上田城主仙石政俊によって開削された用水路です。昭和24年、千曲川右岸の樹園用水の取水口を合口し、今までの取水口より600m上流の岩盤露出地点に頭首工を造るとともに、幹線用水路6,500mの大改修が行われました。

### 11 堀越堰

【所在】上田市上野  
【築造】不明  
【管理者】堀越堰水利組合

神川右岸から取水する5つの堰の中で最も最大の堀越堰は、神科地域から塩川地域を広く潤しています。神科地域には、築里遺構が残っており、堀越堰の開削は古代にさかのぼるといわれています。1677年に日蓮道場工事が行われましたが、別所藩と呼ばれる岩野藩の崖は崩落しやすかったため、昭和45年の改修により、ようやく安定した用水が供給できるようになりました。

### 12 稲倉の棚田

【所在】上田市稲倉  
【築造】江戸時代中期  
【保全団体】稲倉の棚田保全委員会ほか

稲倉川沿いの標高640～900mに780枚以上の棚田が連なり、石積には人々の営みを感じます。四季折々の色彩や眼下に広がる稲倉のようなら上田市街、遠方に望む八ヶ岳、美ヶ原、北アルプスの山々は感動的な景観を織りなしています。ほけり米や棚田日本酒の販売、小中学生による農作業体験、棚田オーナー制度のほか、ししおどし、棚田CAMPなど観光イベントも開催されています。

### 13 姫子沢の棚田

【所在】東御市津津・和  
【築造】不明

東御市の東部に位置する姫子沢の棚田は、集落の周辺から幾重にも重なるように広がり、眼下には千曲川の流れて上田平を望み、農村集落と棚田が一体となって美しい農村風景を織りなしています。戦国～江戸時代に現在の場所に開削されたといわれており、平成11年に日本の棚田百選に認定されています。

### 14 滝の沢の棚田

【所在】東御市津津  
【築造】不明

東御市の東部に位置する滝の沢の棚田は、石積の田んぼが集落を取り囲むように広がり、美しい農村景観を生み出しています。平均勾配1/8程度(距離8mにつき1mの高低差)の急峻な土地では、法面を減らして少しでもいい耕作地を確保するため石積にしています。

## 世界かんがい施設遺産

国際かんがい排水委員会(ICID)は、かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資することを目的として、建設から100年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したもので、卓越した技術により建設されたもの等、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設を登録・表彰するために、世界かんがい施設遺産制度を創設しました。登録により、かんがい施設の持続的な活用・保全方法の蓄積、研究者一般市民への教育機会の提供、かんがい施設の維持管理に関する意識向上に寄与するとともに、かんがい施設を核とした地域づくりに活用されることが期待されています。

平成28年11月8日に茅野市の「滝の湯原・大河原堰」と安曇野市の「拾ヶ堰」が、平成30年8月13日に佐久市の「五郎兵衛用水」が登録されました。



## 上田市塩田に伝わる雨乞い行事

上田市塩田は、肥沃な土壌であったため、「塩田三万石」といわれ、江戸時代、上田藩の約半分の米を賄っていた地域です。しかし、年間降水量が900mm未満と非常に少ないため、古くから数多くのため池が造られ、雨乞いの行事が行われてきました。その一つである「岳の橋(たけのぼり)」は、別所地区に伝わる雨乞い行事で、今から500年ほど前に大干ばつがあり、夫神(おかみだけ)の山の神様に雨乞いの祈願をしたところ、恵みの雨が降ったことから、山頂の祠に丸頭龍神を祀り、各家で織った布を奉納したことが始まりといわれています。7月中旬の日曜日、まだ暗いうちに夫神へ参り、日の出とともに山頂の祠で五穀豊穡を祈願した後、色とりどりの反物と竹竿で作った幟を掲げて、別所神社まで歩きます。

